

バッチ・フラワー BACH FLOWER

◎バッチフラワーとは？

心のバランスを取り戻す38種類の花のエッセンスです

英国の医師、エドワード・バッチ博士によって、1936年に完成され、以来世界中に広まり、信頼され、使用されてきています。植物や石清水など38種から作られたものと、その中の5種の花のエッセンスを調合したレスキューレメディがあり、落ち込み、イライラ、ショック、不安、怒りなど、誰もが日常的に体験するような精神状態や感情に作用します

◎自然で安全

副作用、依存性がありません

小さな子供さんから妊娠中や授乳中の方、お年寄りまで、シンプルに安全に安心して飲み続けることができます

他の療法や薬剤とも並行して使うことができ、相乗効果をあげていけるのも大きな特長です

◎使い方はとても簡単

基本的には、1回4滴以上を飲んで使います。その時の心の状態に合わせて、38種類の中から7種類までを組み合わせることができます

◎心と体の調和

様々な感情や心の状態に対応し、穏やかに心と体と精神のバランスを取り戻してくれる自然療法です

たとえば、こんなときに・・・

- 学校や職場に行くのが嫌
- 対人関係が上手くいかなくてイライラする
- 子供や周りの人や物に当たってしまう
- 人前に出ると緊張して、実力が出せない
- 気になることがあると、眠れなくなる
- 急に憂鬱になって、気分が落ち込むことがある などなど・・・

いつでも、どこでも

五反田なると耳鼻咽喉科でのバッチフラワー

バッチフラワーの専門家が、ご自身のお話を伺い、今の感情に適切なバッチフラワーをご提案します

3週間分のバッチフラワーをお渡しします。

バッチフラワー コンサルテーション

50分 5,000円
ピン代(2回目以降) 680円

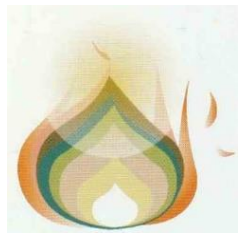
家族療法の場合、ご家族1人
プラスにつき 3,000円

担当

英国バッチ財団登録プラクティショナー
BFRP (Bach Foundation Registered Practitioner)
薬剤師 山田智子

バッチ フラワーを撮ると・・・

《玉ねぎの皮むき効果》



ネガティブな感情に対応したレメディをくみあわせてのむと、バランスがとりもどされ、その奥にあった感情が浮上してきます。これは感情が層をなしていて、適切なレメディをとることで、封じ込めていたネガティブな感情が解放されていくために起こる反応（ヒーリングプロセス）です。感情を深く掘り下げる必要はなく、自分の認識にのぼっている表層の感情に対してレメディを選びます。

いちばん表面にある感情に必要なレメディから飲み始め、しだいに奥にある感情に必要なレメディに進んでいくので、玉ねぎの皮をひとつずつむいていくプロセスになります。

そのため、深層心理をさぐることなく、本人にとって安全で無理のないおだやかな進み方になるので、本来の自分のピュアな状態に近づいていきます

<(社団)バッチホリスティック研究会 林 サオダ 著「Bachflower Remedies GuideBook」より>

本来の自分を取り戻すことができます

エドワード・バッチ博士 (Dr.Edward Bach) の生涯

E・バッチ博士は、1886年9月24日、英国バーミンガムの近くの村で生まれました。彼は幼いときから自然を愛し、簡単で害のない治療法を発見することを夢見ていました。16歳から父の経営する工場で働き、20歳で医学部に入学、6年後に医師の免許を取得します。

やがて、ロンドンの病院で患者を治療しながら、よりよい治療方法を求めて研究を続けるうち、彼の仕事は高く評価されるようになりました。

ところが30歳のときに重い病に冒され、余命3か月と宣告されます。「限りある命でできるかぎりのことをしよう」と彼は決心し、今まで以上に研究に打ち込みました。すると発病前よりもずっと健康になったのです。

「明確な人生の目的をもつことが幸福と健康につながる」という以前からの考えを自ら立証することになりました。その後も精力的に働き、慢性病のための7種のワクチンを開発。大成功をおさめ、医学界で天才として讃えられました。

また彼は、「『病気』ではなく『その人そのもの』を治療する」という信念のもと、貧しい人には無料で治療をしながら、「真の健康は部分的な治療ではなく心の平安からもたらされる」「癒しの鍵は自然の中にある」と考え、害のないシンプルな療法を探求し続けました。

そして43歳の時、「植物に癒しの力がある」と確信し、地位や名誉を捨て、自然に恵まれた野山に旅立ったのです。それまでの研究成果と洞察力や直感を生かし、さまざまな感情を癒す植物を探し求めました。ある日、花びらの朝露に癒しの力があることに気づき、太陽法でその力を水に転写することを思いつきました。その後、煮沸法で作る方法も発見し、ロンドンから旅立ってから6年後、38種のバッチフラワーを完成させました。とうとう、幼いころからの夢が実現したのです。

1936年11月、この療法が多くの人を救うと確信し、彼は永遠の眠りにつきました。人を癒すことだけを考え続けた一生でした。

<白石由利奈 著「バッチ*フラワーBOOK」より>